

平成28年度 奈良県歯と口腔の健康づくり検討委員会 議事要旨

日 時：平成29年3月23日(木) 午後3時00分～午後5時00分

場 所：奈良県文化会館 1階 第3会議室

出席者：(委員) 今田昭子、桐田忠昭、直野泰知、藤岡庄司、増田信一、松村清子、吉田廣子、
和東栄美

概 要：

- 1 <議題1> なら歯と口腔の健康づくり計画の指標の最新値等について
- 2 <議題2> 歯科口腔保健に関する平成28年度の取り組み内容と平成29年度の実施計画について

一括して審議。以下、主な質問・意見。

【子どもの歯科口腔保健について】

- ・ 3歳児の段階で不正咬合になる要因として、しっかり噛む食生活をしていないことがあり、噛むことについての指導を充実してほしい。
- ・ 十津川村で、12歳(中1)の一人平均むし歯本数が減少した要因として、保育所・小学校・中学校でのフッ化物洗口の実施、学校での歯科健康教育の充実、関係者間での話し合いの場を設定したことがあげられる。
- ・ 学校における保健指導の実態として、小学校では歯科口腔保健指導の時間を確保することが比較的可能だが、中学校では時間の確保が難しくなる。中学生の健康課題に関する意識としてむし歯や歯肉炎の順位が低いことも課題。従来の保健指導のやり方では生徒に届かない。
- ・ 学校給食の時間が短いため、学校でしっかり噛んで食べることを指導するのは困難な状況にある。
- ・ 噛まない食事の背景として、給食の時間が短いだけでなく、食事自体が柔らかくなっている。
- ・ う蝕ハイリスク児歯科保健指導モデル事業の対象となる中央こども家庭相談センターの一時入所児については、年齢の高い子どもが増えてきた。虐待の内容も多様化しており、非行もさまざまなタイプがある。様々な対応が必要になっている。
- ・ 歯科衛生士会は学校での歯科保健指導について、教育委員会または各学校から依頼を受けるので、市町村保健部門がその状況を把握するのは難しい環境にある。
- ・ 12歳児の歯肉炎症有所見率と、う蝕有病率の関係における香芝市と明日香村のように他とずれているところがあるので、歯科検診にはばらつきがあるように感じる。新規の歯科検診標準化推進事業で対応してほしい。

【働き盛り世代の歯科口腔保健について】

- ・ 40歳で進行した歯周炎を有する人の割合が高いことから、それより若い時期からの指導や動機付けの取り組みが必要と思われる。
- ・ 男性の歯科検診受診率低下の要因として、一般論として、就業場所では歯科検診は実施されていないし、労働時間も長いことから、歯科検診受診が困難な状況があるかもしれない。
- ・ 企業や市町村の検診で歯科検診がオプションで受けられるような設定になっ
ても、それを活用するのは普段から歯科医療機関に行っている人で本当に必要な人が受けられていない傾向があるように思う。
- ・ 事業者による歯科検診実施が義務化になればよい。全員対象が無理なら、糖尿病患者や

喫煙者といったハイリスク者が対象でもよい。

【高齢者の歯科口腔保健について】

- ・ 高齢でも歯を多く残しておくことが健康につながることを皆が理解すれば、歯科検診も受けるようになるのではないか。
- ・ 噛まないことは、寝たきりや認知症のリスク上昇につながるので、自分の口で噛んで食べる生活が健康で長生きするために必要。
- ・ 高齢者の食事の傾向として、カルシウムやタンパク質は不足しがちになる。高齢者の健康は栄養面からのアプローチも必要。
- ・ 高齢者は歯が無くなったなら噛めなくなって当たり前という認識。口腔機能向上については、初めて話を聞くという反応が多いが、指導を行うと、頑張っ取組もうという意識になるので、県の地域巡回指導・普及啓発事業は継続していただきたい。
- ・ 老人施設協議会で年1回職員の取り組みの発表の場があり、歯科衛生士のケース発表を絶やさないようにしている。高齢者施設で歯科衛生士が頑張っ、高齢者が元気になっていることの情報発信をしている。

【障害者（児）の歯科口腔保健について】

- ・ 障害児の場合、学校歯科検診で治療必要と判明しても、受診につながらないケースがある。学校では受診勧奨までしかできない。
 - 障害児の歯科治療については、樫原の社会福祉総合センター内に歯科診療所があり、県歯科医師会でも連携室を設置しており、連絡あれば調整する。
- ・ 障害者について、養護学校から歯科衛生士会に依頼があると指導に赴くが、先生も多くてサポートが手厚い。

【医療と歯科口腔保健の連携について】

- ・ 周術期の口腔ケアについては、歯科衛生士会で病院歯科、がん部会を作って対応。歯科の無い病院で実施できるよう看護師を対象とした研修を始めた。
- ・ がん患者の口腔ケアについては重要で、周術期の管理について保険点数もついた。入院中は病院で実施できても、退院後のケアが追いつかないのが課題。
 - 歯科医師会では病院に訪問可能な会員を募ってリスト化しているので照会していただきたい。各種パンフレット、リーフレットも作成しているので必要あれば連絡してほしい。
- ・ がん患者の多くはがん診療拠点病院で治療されており、そこには歯科口腔外科が併設されているので心配していないが、退院後、自宅に戻ってからの対応を検討する必要があると思う。

【歯科口腔保健の推進体制について】

- ・ 県内39市町村中7市町が市町村における歯科口腔条例制定、まだ少なすぎると思う。市町村格差をなくすために、県は市町村と連携してほしい。歯科医師会は支部を通じてアプローチする。
- ・ 要介護の原因は歯科口腔保健との関係が深く、寝たきりにならないために歯科口腔保健、よく噛むことも健康寿命日本一に向けた取り組みとして、市町村と連携して実施してほしい。
- ・ 健康寿命日本一のために、歯科口腔保健を推進することは重要。

以上